

(9) 四国



四国地域では、景気はやや弱含んでいる。

- ・鉱工業生産は減少傾向にある。
- ・個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる。

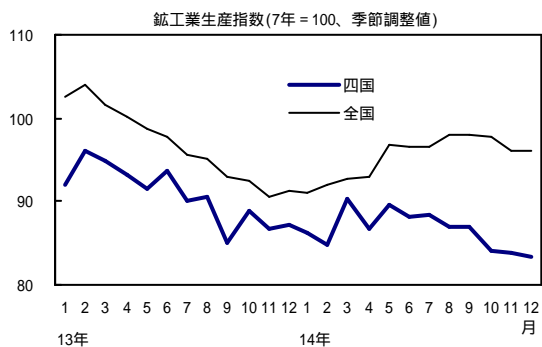
前回調査からの主要変更点

| | 前回（平成14年11月） | 今回（平成15年2月） |
|-------|--------------|---------------------------|
| 総括表現 | 下げ止まりつつある | やや弱含んでいる |
| 鉱工業生産 | おおむね横ばい | 減少傾向 |
| 雇用情勢 | 依然として厳しい | 依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる |

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は減少傾向にある。

電気機械は、液晶テレビ向け部品などの好調な品目があるものの、半導体の減少から全体でも大幅に減少している。紙・パルプは、印刷用紙などが安定した生産を続けている。食料品・たばこは、冷凍食品などの需要が堅調であるものの、清涼飲料などにより全体で減少している。一般機械は、自動車向けや農業機械が好調である一方で、建設機械などの需要低迷から依然として低調である。



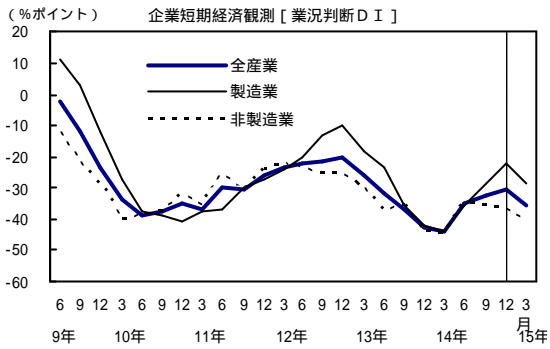
(備考) 平成14年12月の四国は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

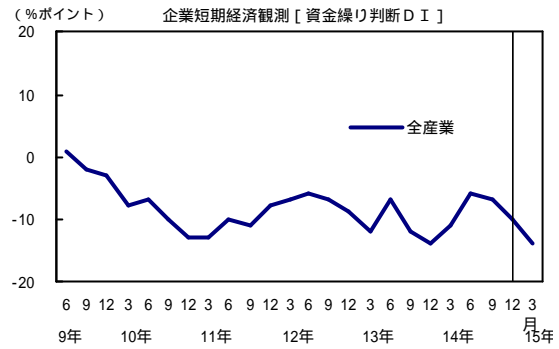
| | 付加価値 ウェイト | 生産 | | 出荷 | 在庫 |
|---------|--------------|-----------|-------------|-------------|-------------|
| | | 7~9 月期 | 10~12 月期 | 10~12 月期 | 10~12 月期 |
| 電気機械 | 13.1 | 0.5 | 9.0 | 1.1 | 20.8 |
| 紙・パルプ | 12.4 | 2.3 | 0.5 | 0.4 | 0.9 |
| 化学 | 11.8 | 3.0 | 7.0 | 2.4 | 3.9 |
| 食料品・たばこ | 11.4 | 2.0 | 6.4 | 5.9 | 7.0 |
| 一般機械 | 11.3 | 5.4 | 1.8 | 2.8 | 0.4 |
| 鉱工業 | 100.0 | 0.8 | 4.2 | 3.4 | 0.5 |

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 10~12月期は速報値。

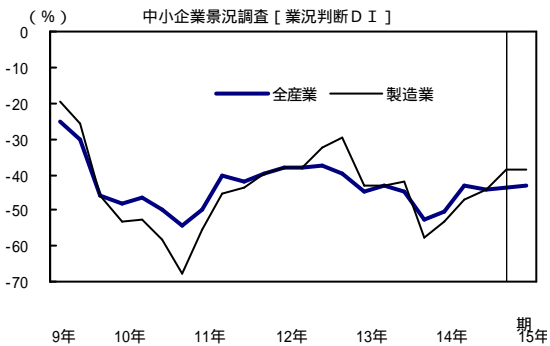
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が拡大している。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年3月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年3月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (1月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「発注ロットが小さくなっていることから生産コストが上昇しており、利益率も低下傾向にある (化学工業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

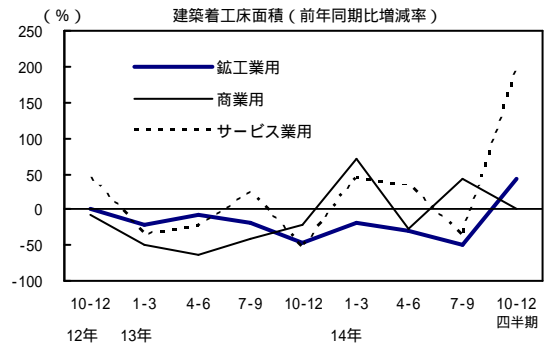
(3) 設備投資の14年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (12月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

| | 13年度実績 | 14年度計画 |
|------|--------|---------------|
| 全産業 | 6.9 | 13.8 [17.0] |
| 製造業 | 11.8 | 23.4 [31.5] |
| 非製造業 | 16.7 | 6.5 [6.7] |

(備考) []は前回 (9月) 調査結果。



2. 需要の動向

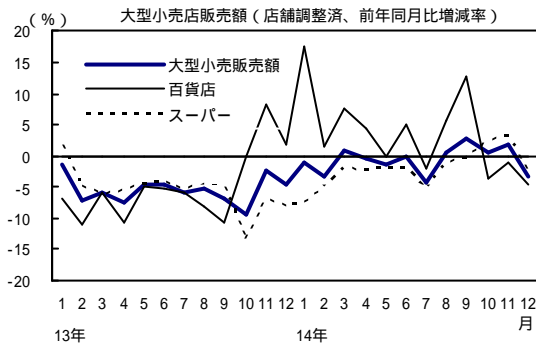
(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、衣料品が不振であったほか、歳暮商戦も法人需要を中心に低調で、海外ブランド品を除き総じて低調に推移した。また、増床やリニューアル効果の反動により3か月連続で前年を下回った。スーパーは、営業時間の延長や牛肉がBSE問題から回復したことなどから飲食料品が堅調に推移した。また、12月は冬物衣料品の不振により前年を下回ったが、10～12月期では前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(1月調査)[家計動向関連D I(現状判断)]

「冷蔵庫や大型テレビなど大型商品の単価が非常に厳しく、また、販売台数も伸び悩んでいる(家電量販店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

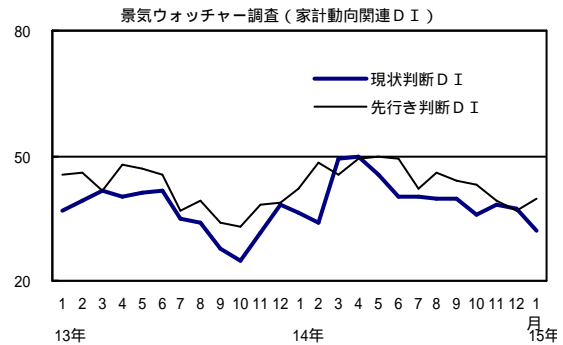
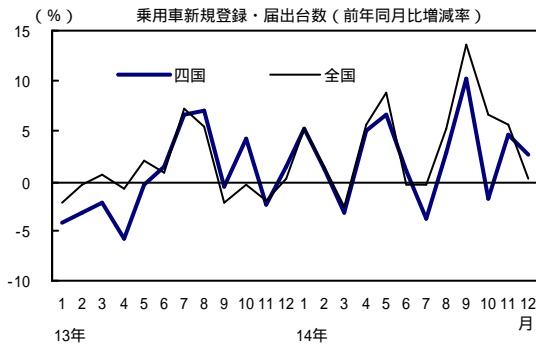


(前年同期比増減率、単位：%)

| | 14年1-3月 | 4-6月 | 7-9月 | 10-12月 |
|----------|---------|------|------|--------|
| 大型小売店 | 0.9 | 0.6 | 0.5 | 0.5 |
| 百貨店 | 9.3 | 3.2 | 4.3 | 3.3 |
| スーパー | 4.9 | 2.0 | 2.4 | 0.8 |
| 乗用車 | 0.1 | 4.0 | 2.9 | 1.9 |
| 景気ウォッチャー | 39.8 | 45.2 | 39.8 | 36.9 |

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

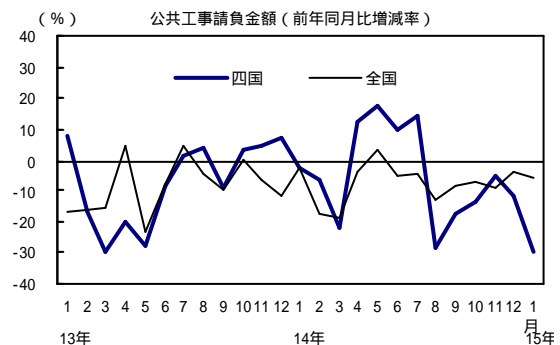
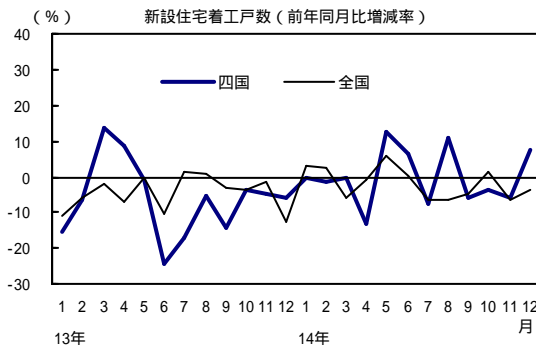
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は緩やかに減少している。

持家を中心に前年を下回っている。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

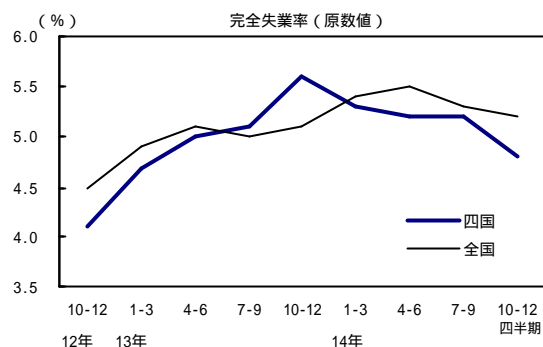
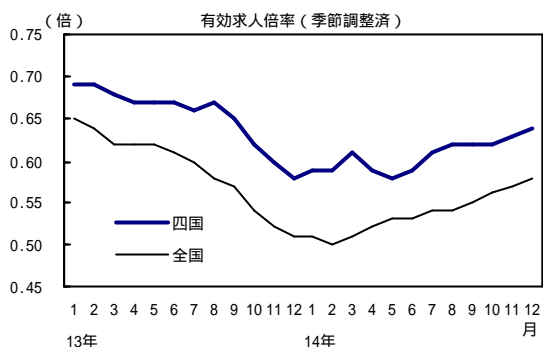


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は緩やかに上昇している。完全失業率は、前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(1月調査)[雇用関連(現状判断)]

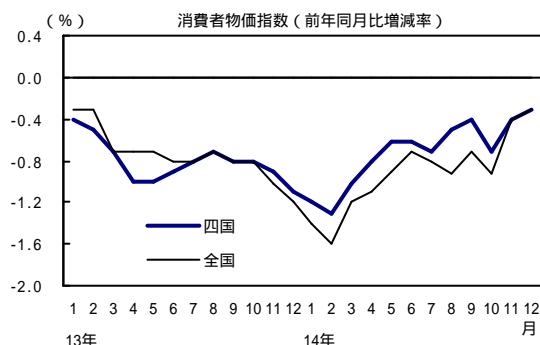
「求人内容を見ると、企業は人件費を抑えるため、正社員を減らしてパート社員や契約社員を増やしている(職業安定所)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

| | (件、億円、%) | | | | |
|-------|----------|------|------|--------|-------|
| | 14年1-3月 | 4-6月 | 7-9月 | 10-12月 | 15年1月 |
| 倒産件数 | 170 | 147 | 144 | 149 | 33 |
| (前年比) | 29.8 | 16.7 | 21.0 | 5.1 | 45.9 |
| 負債総額 | 844 | 377 | 307 | 273 | 76 |
| (前年比) | 0.6 | 30.2 | 40.0 | 70.2 | 63.0 |



景気ウォッチャー調査(1月調査)[合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

・極端に景気が悪くなっているということではないが、客の節約意識が非常に強くなっている。例えば、個数契約の企業先では、2~3個の荷物を1個に梱包するとか、ケースを大きくして個数を減らすなど、輸送経費の節約に努めている(輸送業)。

<先行き>

・年末年始の活気も一時的で、その後は低迷している。よって、通常月の景気回復は、なかなか見込めず、現在の底の状況がしばらくは継続する(百貨店)。

